（仮訳）

How's Life： 日本の状況

日本は、いくつかの幸福度の領域では良好なパフォーマンスを示しており、OECD の平均に近いランキングである。また、いくつかの項目では平均を上回っている。主要なものは次の通りである：

- お金は生活水準を高めていくために重要な手段である。2008 年には、平均的な日本人の家計は、OECD の平均に近い、おおよそ 2 万 3000 米ドルの収入を得ており、OECD の平均のおおよそ 2 倍である 6 万 5000 米ドルのネット金融資産を持っている。

- 雇用の点では、15 歳から 64 歳の日本人の 70%が収入のある職を持っているのに対し、OECD の平均は 65%である。日本人は、OECD 平均に近い年間 1,733 時間働いているが、おおよそ 7%は、実際に望んでいるよりも少ない時間しか働いていない。これは、OECD 平均の 2 倍である。日本の勤労者は、一日当たりほぼ 50 分という長い時間を通勤に費している。日本人は、また 1 日当たり合計 14 時間しかレジャーや自分のために時間を使っていないが、これは OECD 諸国の中で最低である。ジェンダーの不均衡をみると、女性(60%)の方が男性(52%)よりも多く高等学校を卒業しているにもかかわらず、女性（70%）よりも男性（80%）の方がより多くが雇用されている。OECD の生徒の学習到達度調査(PISA)の読解力テストにおいて、男子より女子の方が良い成績の傾向にある(40 ポイントの違いがあり、これは 1 年分の学校教育により得られるものに相当する)。子どものいる母親の 66%は収入のある仕事についているが、これは OECD 平均と同じである。

- 住宅の状況は全体としては良く、77%の日本人は自分の住宅の状況に満足している。この数字は高いが、87%という OECD 平均を依然下回っている。

- 良い教育を受けることは、良い職を見つけるために重要なことである。日本においては、25 歳から 64 歳の 44%は、大学卒業程度の資格を得ており、OECD 諸国の中で最も高い国の 1 つである。教育システムの質の点では、PISA の最新データによれば、読解力において平均的生徒の点数は 600 点中 520 点である。これは OECD 諸国の中で最も高い。生徒たちは、自分自身の経歴または所属学校にかかわらず、良い成績を収める傾向にある。

- 健康の点では、日本人の誕生時の平均余命は 83 年であり、OECD 諸国の間で最も高く、日本は、乳児死亡率(10 万出生あたり 2 人死亡)が最も低い国の 1 つである。さらに、日本人の肥満が 4%であるのに対して OECD 平均は 17%である。しかしながら、成人のうち自分の健康状態が良好であると答えたのは僅か 33%である。これは、都市の中心部における環境が良くないことがその原因のひとつかもしれない：大気の PM10(肺に入るほど小さく、肺に破損を与える大気汚染物質)の集中レベルは、27 マイクログラム/m^3であり、これは多くの OECD 諸国のレベルよりも高い。

- 公共面に関しては、日本人は強いコミュニティ意識があるが、住民参加については中庸なレベルにある。90%の日本人は必要なときに頼れる人がいると信じており、これは OECD 平均に近い。他方、政治プロセスへの市民参加の尺度である投票率は、近年の選挙においては 67%であり、OECD 平均の 72%より低い。このことは、日本人の中

央政府に対する信頼度の低さ(27%)から部分的に説明することが可能である。因みにOECD 諸国平均の政府への信頼度は 43%である。

- 犯罪に関しては、個人に対する危険の観点から日本は OECD 諸国の中で最も低い。過去 12 ヶ月に被害を受けたと報告があったのは人口の僅か 1%からであり、殺人についても 10 万人のうち 1 人が被害を受けているだけである。

- 日本人は、生活の満足度について質問された場合、10段階評価で6くらいの満足度と答えている。これは一人当たりの所得が同程度のOECD諸国より低く、OECD諸国平均の 7 よりも低い。もっとも日本人の87%は、昨日に比べて今日の方がよりポジティブに感じていると答えており、また、いずれの場合も女性の満足度の方が高い。